

「アクセス」とは、情報に近づく道のこと。家庭科の先生方の日々の授業に役立つ資料を、折に触れお届けいたします。

生活の話題

そして、子育てはつづく

佐川光晴

わがやには11歳と3歳の息子がおり、妻は小学校の教員をしているので、私が受け持つ家事の範囲は限りなく広い。保育園への送り迎えはもちろん、洗濯干しから買物、それに夕食の支度までをこなし、刻々と進む時計の針に追い立てられながら机に向かう。本当に、これでよく作家がつとまるものだと思ってしまうのだが、おそらく事情は逆なのであって、家庭以外のことに気をとられずに済んでいるからこそ、私は小説を書きつづけてこられたのだと思う。

もちろん、子どもが熱を出して保育園を休めば仕事の予定は大幅に狂うし、妻の遅い帰宅にも毎日のようにイライラさせられている。今年彼女は5年生を担当しているので、宿泊学習に付き添ったり、職員会議が長びくたびに、私の執筆時間は削られてきた。

それでも案外平気でいられたのは、息子たちと一緒にいるのが楽しかったからだ。教員の方々には釈迦に説法だけれど、自分が見守ってきた相手が何事かを成し遂げることの喜びにまさるものは、この世にないといっても過言ではない。

とくに乳幼児の場合、時間を区切ったり、目標を定めて励ましてあまり意味はなく、ある日とつぜん彼に変化がおとずれるまで、ひたすら傍に寄り添いつづけるしかない。そこではじめて、ひとは人為ではいかんともしえない人間の自然に気づくのではないかと思う。

下の息子は3歳の誕生日を目前にした9月半ばになって、ようやくトイレで排尿・排便ができるようになったのだが、そのとき彼が見せた感激を目撃できたことは私の誇りである。私の両親もまた、時々の私の成長に喜びを感じたであろうし、いつか息子たちがかれらの子どもの成長を喜び日があることを、私は願ってやまない。



さがわみつはる 小説家。夫婦や家族の問題を扱った小説を数多く発表している。「永遠の誓い」など教員を描いた作品も多い。「ジャムの空壇」「縮んだ愛」「串いのあと」「銀色の翼」「家族の肖像」で芥川賞候補5回。

特集

子育てをよりよくする

子育てに恐怖感を与えるような報道がありますが、子どもは親だけが育てるものではなく、社会全体で育てるもので、誰もがかわることです。一人ひとりの子ども観を養うことをテーマに、さまざまな視点から子育てについて取り上げました。

CONTENTS

生活の話題
そして、子育てはつづく
佐川光晴
.....1

家庭科再発見
日米比較から考える
給食の意味
恒吉僚子
.....2

実践レポート
子どもの人間形成と
親の役割
永井敏美
.....4

家庭科クイズ
社会保育編
明楽英世
.....6

Information File
「ボクラの島を忘れない」
～多田亜佐美監督に訊く
.....7

日米比較から考える給食の意味

恒吉 僚子

後追いする日本

アメリカの子どもをめぐる状況を見ていると、何年か遅れて日本で同じようなことが起きるために、映画のリプレイを見ているような気持ちになることがよくある。そして、今日象徴的なことは、子どもをめぐる起きている共通問題の多くは、学校と家庭が協力して取り組まなければ解決しないことがはっきりしていることであろう。

公教育の射程を広くとってきた日本に比べて、アメリカは、「勉強」は学校、しつけは家庭だという分業体制が強く守られてきた国である。ところが、そのアメリカの教育界で、公教育領域が家庭領域に拡大し始めるという現象が見られるようになってきている。それは、一つには、子どもの人間形成の担い手がメディアやインターネットにと複雑化しているにも関わらず、子どもを支える担い手は、それぞれに孤立し、子どもの健全な成長を、単独では支えきれなくなっているからである。

家庭と学校の役割分業の見直しを求めるアメリカ社会における変化は、基本的には日本にも共通している。従って、アメリカの経験は、未来の日本の子どもの状況を考える上で示唆に富んでいる。

ここでは、学校給食のあり方という観点から見た場合、アメリカで問題となり、日本にとって示唆のある二つの例を考える。一つは弱くなりつつあるとされる社会性を育成していくにあたっての給食の時間の役割、第二は、健康的な食習慣・生活習慣の基礎を作る上での役割である。

危機にある現代社会における社会性の育成

子どもの暴力が社会問題化する中、「個人主義」社会アメリカで、人との協同的関係の育成、感情教育や社会性の育成が強調されることが増えてきた。そして、子どもの社会性の低下という点で、日本も残念ながら後追いをしている。アメリカの学校で生徒が銃を教室に持ち込み、突発的に乱射したことが最初に問題になっていた頃、日本ではほとんどそれは対岸の火事のように報道されていた。しかし、今日では、カッターナイフで小学生が同級生を殺す事件が日本でも発生している。

こうした一種の後追いに見える現象が日本で起きてくる原因は一つではあるまい。都市化や核家族化等の共通した個別化への社会変化が起きていると同時に、日本が意識的にアメリカや欧米の制度をモデルにしてきたこともあげられよう。欧米等の研究成果に影響され、それまで問題にされてこなかった行為が、「発見」されている面もあるのかもしれない。いずれにせよ、こうした社会問題は、もはや家

庭だけでは子どもの人間形成を担いきれない状況を示している。

こうした結果、日本以上にしつけ領域は家庭の責任であると考えてきたアメリカで、学校教育の中で、社会性を育成したり、暴力に頼らずに解決できる資質を育てようとする様々な実践が台頭している。

葛藤解決 (conflict resolution)、反暴力 (anti-violence)、人格教育 (character education) 等、様々なラベルがこうした実践にはつけられてきた。こうした実践の背後には、もはや学校が子どものしつけ領域において、門外漢ではいられない状況がある。こうした中で、アメリカではただ単に「食べる」時間であった給食にも、子どもの社会性の育成を積極的に担う時間としての役割を期待する声も上がるようになってきている。休み時間の活用も、同じように見直されている。これまで授業の間の隙間の時間だとされてきた時間を再評価する声も出ているのである。

子どもの肥満

アメリカで子どもの社会性、特に暴力の問題と共に、学校の責任が問われている領域の一つに、食をめぐる習慣付けがある。その背後には子どもの暴力と同じように、子どもをめぐる状況が変化する中で、今日、家庭だけでは社会が求める望ましい人間形成を、支えきれないとの危機感がある。

肥満は先進国どこでも問題となっているが、アメリカはその際たる国である(図)。2003 - 4年の統計を見ると、2 - 19歳の17.1%が体重過多であり、成人の32.2%が肥満であった



大統領のフィットネス・チャレンジの一貫として、大統領が3マイル走を始めるところ(大統領夫人は1.5マイル徒歩を開始)。2002年。政府「より健全なアメリカ」ホームページから。



つねよし りょうこ 教育社会学者。東京大学大学院教育学研究科助教授。専門は教育の国際比較研究。主な著作に『人間形成の日米比較』(中公新書)、共著に『育児の国際比較 子どもと社会と親たち』(日本放送出版協会)などがある。

(National Center for Health Statistics, <http://www.cdc.gov>) 肥満はアメリカにおける最も急速に増えている病気と死亡の原因であるとされ、ブッシュ政権のもとでのキャンペーンも行われている (p.2の写真)。

アメリカに比べるとまだ状況はよい日本であるが、肥満と結び付けられて語られるファースト・フードにソーダその他の高カロリーの食事、食事量の増加や運動不足、テレビやゲームへの依存等の生活習慣要因は、アメリカ同様悪化傾向にあり、肥満傾向にある児童生徒は、日本でも年々増えている(文部科学省、学校保健統計調査)。

では、その解決を家庭に委ねていけばよいのかというと、親の生活習慣が問題の一因である場合が少なくないとされる。アメリカでは、勉強と共に、フィットネス度や肥満度の成績表を家庭に送る学校が現れている。

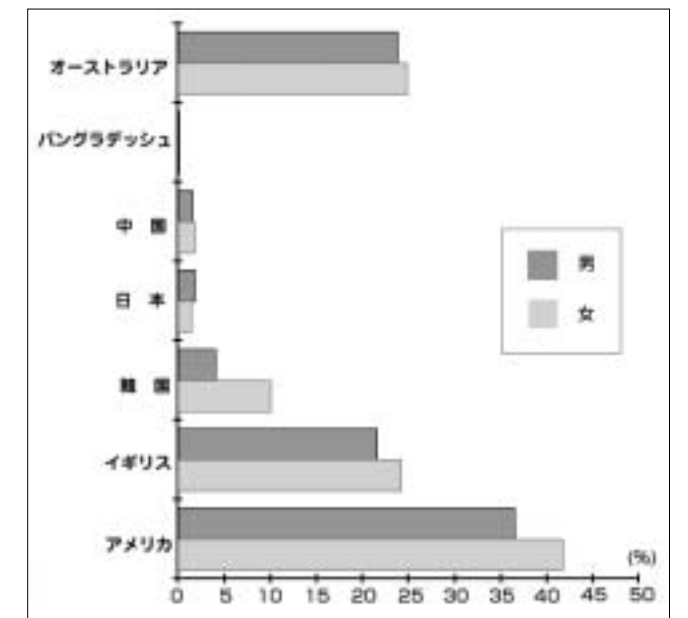
日本よりも肥満の問題が進行しているアメリカの例は、二つの理由で日本人にとって示唆に富んでいる。一つは、階層差という視点を食のあり方に持ち込んでいること、そして、二つ目は、市場原理が学校の公共性の論理に食の世界でも勝った時の一つの帰結を見ることができるという点である。

第一の点に関してであるが、アメリカでは、人種や民族が階層と絡み合い、社会経済的に厳しい状況にある層と、民族・人種のマイノリティが重なっているため、問題が見えやすい。そこで明らかなのは、社会下層の階層の人々ほど、社会的矛盾を強く映し出し、社会的に厳しい統計が出てくる傾向があるということである。

肥満に関しても、例にもれず、マイノリティに多い傾向があり、栄養や食に関する知識が欠けていたり、栄養に配慮する余裕のない層に矛盾が出やすいという理解が一方では成り立ちうる。しかし、他方では、社会的により恵まれた中産階級においても(例 両親共にキャリアを持っている外食や出来合いの食事が多くなっている)同様の傾向が見られ、同じような結果が出ていてもそこに至る理由が多様であるという現代的状況を思い出させてくれるのである。

もう一つ、アメリカの例が物語っていることは、教育の公共性において、食が担う役割である。日本でも、学校選択、学力テストによるランク付け、と市場型競争の波が押し寄せているが、アメリカではあらゆる領域で以前からその流れが顕著である。学校給食においても、政府のランチ・プログラムによるもの以外にも、公的資金不足を補う形で、学区が飲料水やファースト・フードの会社と契約して、その商品を買っていたり、スナックが校内の自動販売機で売られたりしてきた。特に中等教育においてはそれが

図 国別、年齢別に標準化された肥満値 15歳+



出典: WHOより

顕著であり、子どもの選択の自由、子どもが選択するものを提供するサービスの論理によってそれは正当化されてきた。しかし、学校はショッピング・モールではない。求められているから売るとするのは、市場の論理であって教育の論理ではない。こうしたことが、アメリカでも問題になっている。

大人の責任

社会性を育成する仕組みの機能不全、食をめぐる歪み、こうした現象は、最も極端な形で進んでいるアメリカに比べればまだ日本では問題が少ないように見えてしまうかもしれない。しかし、状況から見て、日本の進んでいる状況は確実に今のアメリカが到達している方向にある。そして、こうした状況の中で、それまで隙間の時間だとされてきた給食や休み時間等の役割が再定義されていることが興味深い。

「我々の子ども達がこの問題を発生させたのではない。大人が作ったのだ...だからこそ、大人が問題の解決に向けて道筋を示していかなければならない」という米国下院委員会に向けた米国公衆衛生局長の言葉は、そのまま日本人への警鐘でもある(2003, <http://www.surgeongeneral.gov> より入手可)。

子どもの発達と保育の授業 子どもの人間形成と親の役割

富山県立砺波工業高等学校教諭 永井 敏美

1. 学習のねらい

人は生まれながらにして、接触要求やコミュニケーションの要求をもっていることを知る。また、アタッチメントを形成するために親や保育者の適切な関わり方について考える。
本時では、乳幼児心理学の研究について知り、親の役割について考える。テレビ視聴と子どもの発達について考える。

2. 授業の展開

資料1 ハーロウ夫妻の研究



生まれたばかりのアカゲザルを母親から隔離して飼育したところ、布カバーやクッションに強い執着を示すことに気づき、2つの母親人形（針金製と布製）をつくって、どのような行動をとるか観察した。

その結果、生後まもないサルは、やわらかい肌触りに強い接触要求があり、生理的要求をみだす授乳よりもしがみつきの接触経験によって、母ザルへの結びつき（愛着）を強めることがわかった。また、生後母親から隔離されたサルは身体的健康には問題がなくても、他者との関係が築けず自虐的行為がみられることや、自分の子どもに全く愛情を示さないなど、行動面で問題があることを明らかにした。

資料2 ボウルビイの研究

第二次世界大戦後のイタリアの孤児院では、食事を十分に与えたにもかかわらず、孤児の発達の遅れや罹病率、死亡率の高さ、適応不良が問題になった。ボウルビイは、子どもの生命の維持や精神発達には親や養育者などの大切な人との情緒的な絆（アタッチメント）が重要であることを研究し、WHOの「親を失った子どもたちの福祉」のプログラムの根幹となった。子どもが外界への探索行動をする場合に親が安全基地となるなど、アタッチメントは子どもに安心感を与え発達の基盤となるものである。

学習活動 / 指導上の留意点

<導入>ハーロウの実験（5分）

生後母親から隔離されたサルはどのように育つか、考え発言する。

<展開>代理母に関するハーロウの実験結果を予想する（15分）

・ハーロウの実験に使われた模型を再現し、クイズ形式で実験結果を予想させる。

赤ちゃんザルが針金で作られた母親模型と布で作られた母親模型のどちらで過ごす時間が長いか、その理由も合わせて発言する。針金の母親模型からのみミルクがでる場合。布でつくった母親模型をひとつは固定し、ひとつは揺れるようにしておいた場合。音がでるクマのおもちゃで驚かせたときはどのような反応を示すか考える。サルの子が、やわらかい布の感触や揺れる感触を好むことを伝え、スキンシップの重要性に気づかせる。保育者の適切な関わり方について考えさせる。

ボウルビイの研究について知る（10分）

ボウルビイの研究について知る。戦争孤児の研究やアタッチメント（愛着）理論について知らせる。

<発展>子どものテレビ視聴と親の関わり方について考える（10分）

グラフをみてわかることを発言する。親と一緒にテレビをみて子どもに話しかけると子どもの反応行動が活発になることを理解させる。

まとめ（10分）

本時の取り組みについて自己評価し、考えたことを記述する。アタッチメント（愛着）の形成やスキンシップによって、信頼感や安心感が得られ、心身の発達に欠かせない基盤となることを理解させる。

資料3 テレビ視聴と子どもの発達

「日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会」によると、言葉の遅れ、表情が乏しい、親と視線を合わせないなどの症状を抱えて受診する幼児の中に、長時間のテレビ（ビデオ）視聴をやめると症状が改善される場合があることがわかり、乳幼児の発達へのテレビの影響を調査したところ、テレビの視聴が4時間以上の子どもは、4時間未満の子どもに比べ、有意語出現の遅れが高率（1.3倍）であることがわかった。乳幼児が親と一緒にテレビを見ている場合、まねをしたり指さして質問するなど反応行動が活発になり親子のコミュニケーションが生まれるが、一方的に見せるだけでは、言語能力が発達しないばかりか社会性や運動能力にも遅れ傾向がみられることがわかった。

資料4 NHKスペシャル 「赤ちゃん 成長の不思議な道のり」

ワシントン大学のパトリシアクル教授は、赤ちゃんの成長にとって重要な条件は何かを検証するために外国語を効果的に学ばせる研究を行った。英語圏に住む生後9か月の赤ちゃんに、中国人が人形やおもちゃを使って語りかけるビデオを1回25分間、4週間かけて12回視聴させ、中国語を聞き分ける力を調べた。その結果、赤ちゃんは大変興味を持ってビデオをみていたにも関わらず、ビデオ学習した赤ちゃんが学習なしの赤ちゃんでは差がみられなかった。そこで、ビデオの中の中国人が、直接赤ちゃんに語りかけたところ、この対面遊びをした赤ちゃんは正解率が高かった。つまり、同じ情報をビデオで学習しても意味がなく、社会的な人との関わりが大変重要であることを示した。

3. 生徒の感想

- ・ぬくもりというものは人の感性を育てる大事なものだと思った。
- ・今まで親のいない生活なんて考えたこともなかったが、親から引き離されたサルは脳や情緒が発達しないことを知り驚いた。
- ・お母さんが赤ちゃんを寝かせるときに、抱っこしながら揺さぶっているのは、赤ちゃんにとってとても気持ちのいいことなんだとわかった。
- ・親子関係は人間関係の基本になる。今の私は、いろいろな人とのコミュニケーションを大切にしたいと思った。
- ・子どもが親に暴力をふるったり殺したりする事件が後を絶たないが、小さい頃の親子関係はとても大切なものだと感じた。
- ・子どもをテレビの前に座らせておくだけでは、教育効果があまりないことがわかった。
- ・戦争孤児は、ことばや心身の発達が遅れたことを知り、戦争で子どもを不幸にしてはいけないと思った。
- ・私は生まれてから親に大切にされてきたから、今を幸せに過ごしていられると思うと親に感謝しなければならなかった。
- ・親になったら子どもにたっぷりの愛情を注いであげたい。

4. 授業を終えて

保育領域の学習として、親の養育態度と子どもの発達について乳幼児心理学の研究を紹介しながら考えさせた。導入では、生まれてすぐに母親と離された赤ちゃんザルはどうなるのだろうと考えさせた。通常通り育つと答えた生徒

ワークシートの例

子どもの人間形成と親の役割		2 ボウルビイの研究	
H 番 氏名		第二次世界大戦後のイタリアの孤児院では、食事を十分に与えたにもかかわらず、孤児の発達の遅れや罹病率、死亡率の高さ、適応不良が問題になった。ボウルビイは、子どもの生命の維持や精神発達には親や養育者などの大切な人との情緒的な絆（アタッチメント）が重要であることを研究し、WHOの「親を失った子どもたちの福祉」のプログラムの根幹となった。	
1 ハーロウ夫妻のサルの実験（1950～60年代）	（1）生後まもなく母親から隔離されたサルはどのように育つたのでしょうか。	アタッチメント（愛着）とは、ほほえむーほほえむ、泣くー抱くなど、親子の情緒的コミュニケーションを積み重ねることによって確立される親子の絆のこと。不安や恐怖に対する安全基地となり積極的な探索行動につながる。	3 発展 乳幼児は、親がテレビと一緒にみて話しかけてくれると反応行動が活発になる。ひとりでみて教育効果は低く、長時間視聴はことばの発達にマイナスの影響を及ぼす。
（1）他のサルと適切に交わることができず、拒絶したりいじめられたりした。	・自分の身体を毛を引き抜いたり、自分の手足をかんだりした。	（2）生れたばかりのサルは、次の から の場合、どちらのおかあさんのもとで長い時間を過ごしたのでしょうか。	*日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会2003より作成
・大人になって母親になったときには、子どもに愛情をしめさず、殺してしまうこともあった。	針金のおかあさんからだけミルクがでる場合、針金のおかあさんと布のおかあさん	予想：（ 布のおかあさん ） 正解：（ 布のおかあさん ）	4 まとめ
	針金のおかあさんからだけミルクがでる場合、針金のおかあさんと布のおかあさん	予想：（ 針金のおかあさん ） 正解：（ 布のおかあさん ）	大変よくできた
	どちらもおかあさんであるが、揺れるおかあさんと動かないおかあさん	予想：（ 揺れるおかあさん ） 正解：（ 揺れるおかあさん ）	できなかった
	（3）太鼓をたたきながら前進するクマのおもちゃをおりに入れて赤ちゃんザルを驚かせたとき、サルはどのような行動をとったのでしょうか？	・布のおかあさんにしがみついた	（1）関心を持って授業にとりくめたか
	（4）ハーロウ夫妻の実験からわかったことをまとめましょう。	・布のおかあさんにしがみついた	（2）すすんで発言できたか
	赤ちゃんにとって、食欲を満たすことは重要であるが、それ以上に暖かみややわらかさへの接触要求が満たされて安心感を得ることが重要である。このことから、スキンシップや五感への働きかけは、情緒の発達にとってとても大切なことであることがわかった。		（3）内容が理解できたか
			（4）今日の授業で最も印象に残ったのはどのようなことでしたか。
			また、授業を通してどのようなことを考えましたか。
			母親から離されたサルが、自分の体を傷つけてしまうのがかわいそうだったと思った。ぬくもりというものは人の感性を育てる大事なものだと思った。親になったら、スキンシップを大切に子どもにたくさん愛情を注いで育てたい。

身近な話題から
家庭科を学ぼう

保育というと、家族が子どもを育てることを前提とする眼差しが強い傾向にあるように見受けられます。しかし、これでは、狭い見方に止まるのではないのでしょうか。どんな人間でも、社会全体で子どもを育てるといった視点を持つことが、子ども観の奥行きを広げることになるのではないのでしょうか。今回は、このような側面を意識して問題を作成してみました。

<家庭科クイズ 社会保育編>

次の ~ の文章で正しいと思うものに、まちがっていると思うものに×を、あとの に書き入れましょう。また、時間があれば、その理由も考えたり、話し合ったりしてみましょう。

- | | | | |
|--|--------------------------|---|--------------------------|
| 「いじめ」の被害者の3分の1にあたる子どもは、誰にも相談相手がなかった。(2005年 日本) | <input type="checkbox"/> | 高校の金融教育で「資産運用の自己責任意識」より「カードの知識や利用上の留意点」を教えるべきという意見のほうが多い。(2003年 日本) | <input type="checkbox"/> |
| 縄文時代より弥生時代のほうが、子どもに関して多くの種類の遺物が出土している。 | <input type="checkbox"/> | 「こども白書」「世界子供白書」「こども地球白書」は、実在する資料または書籍である。 | <input type="checkbox"/> |
| 母子健康手帳には、児童憲章が記されている。 | <input type="checkbox"/> | 子どもの5人に1人が5歳未満で死亡する国々のほとんどは、1999年以降、大規模な武力紛争を経験している。 | <input type="checkbox"/> |
| 日本国内では、1980~2002年の13年間に、産婦人科の医師の数が、10%も減っている。 | <input type="checkbox"/> | 他殺が原因で死亡する子供たちの人数は増加している。(1980年~2003年 日本) | <input type="checkbox"/> |
| OECD諸国中、日本政府の公教育への支出額は対GDP比で中の下である。(2002年ないし2003年) | <input type="checkbox"/> | 「子どもの権利条約」が各国で保障・徹底されるため、子どもの権利委員会が国連に設置されている。 | <input type="checkbox"/> |

解答

×

警察庁の調査によると、「いじめ」の被害者で、保護者に相談したのは、01年では65%で05年には41%と2/3に激減している。一方、誰にも相談しなかったのは、01年の7%から05年の35%と5倍も増加している。「いじめ」の増加傾向の中で、被害者の状況を通して子どもが社会的に孤立化する傾向を読み取ることが、早計であろうか。(参考「朝日新聞」06.11.11.夕刊 第1面)

×

縄文時代には、土器棺のほか妊娠や出産をする土偶や子育ての土偶、子どもが遊んだ粘土塊、足形・手形付き土製品など多彩な出土品が見られる。しかし、弥生時代の出土品には、祭祀具などが存在するが、子どもや子育てを示す表現資料はほとんど見られない。むしろこの時代には、大人と共に労働したことを示す足跡や子どもの殺傷人骨も見出される。縄文時代から弥生時代にかけて子どもへの優しい眼差しが社会的に変化したと考えられる。このように子ども観は歴史・社会により変化することがわかる(参考「掘り出された子どもの歴史」明治大学博物館 p.10~21,30~34)

×

妊娠の判明後、市町村長などへの届け出が、法律で決まっている。そのとき、母子健康手帳が交付される。この中に、児童憲章が記載されている。「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境の中で育てられる。」とあるように、子どもは社会的に育てられる存在なのである。(参考「母子健康手帳」東京法規出版 p.96)

×

減少の原因は、さまざまに考えられるが、これ以上分娩医療機関を減少させず、国民に安心・安全な医療を保障することが行政の役割であろう。(参考「子ども白書」草土文化 p.106~108) 中の下どころか、最低のレベルである。GDP比8.4~6.5%の北欧諸国に対し、日本はわずか4.1%で現在も支出の低下が進行している。経済格差の拡大により、教育の機会均等が失われていく傾向の中、政府が教育基本法の改定をしたことでこのような傾向は改まるだろうか。(参考「格差社会」岩波新書 p.178~181)

解説

「資産運用の自己責任意識の重要性」が83.5%、「カードの知識や利用上の留意点について」が56.1%である。この調査結果には、近年アメリカ合衆国の要求で、貯蓄から投資市場へ日本国民を誘導する政府の経済方針も反映していると考えられる。(参考「暮らしと金融」でもデータ 2005年度版)金融広報中央委員会 p.158) 前者は日本子ども学会の、中者はユネスコの、後者は「地球白書」を日本の子どもやその保護者・教員などに向けて日本環境教育学会が作成した書籍である。「こども地球白書」は、地球環境・教育の問題を政治や経済の問題との関わりから捉えなおしている点でそれぞれユニークな内容を持っている。(参考「こども地球白書2005 2006」朝北社) 他殺が原因で死亡する子どもの数は、減少(または停滞)傾向にある。(データの詳細は参考サイト内のグラフに示されている)このような事実がありながら、マスメディアによる報道の仕方では子どもの他殺事件が以前よりも多発しているように感じられる。マスメディアの教育に対する影響力も考慮に入れることは、社会問題として、保育の問題を考え直すことになるだろう。(参考 asahi.com:「子どもを守る-いま、できること、すべきこと」 http://www.asahi.com/sympo/060427/08.html) 戦争や内戦が、子どもの成育や教育にとって最も悪影響を与えるものの一つであることがわかる。保育は、平和が前提である。保育とのかかわりで、平和教育と関連させて考えていくことも必要だろう。(参考「世界子供白書2006」ユニセフ p.14~15) 「子どもの権利条約」第43条により、締約各国が条約の内容をいかに遵守し実施・進歩させていくかを審査する機関が、子どもの権利委員会である。第44条では、各締約国は、一定の期間内に子どもの権利委員会にその進捗状況を報告しなければならないとされている。(参考「子どもの権利条約」)

明楽英世 (埼玉県立朝霞高等学校定時制)

メディア紹介

MOVIE

愛された記憶

~「ボクラの島を忘れない」の子ども達



多田亜佐美 (映画監督)

夫の転勤で引越した香川県で、瀬戸内海の風景と出会いました。静かな海に点在する島々、漁船、フェリー。静岡で生まれ育った私にははじめて目にする人の営みのある海。

一体この島々にはどんな人たちが住んでいるのだろうか。

当時テレビ局でフリーのテレビカメラマンだった私は休日にカメラ片手に島々を渡り歩きました。島めぐりをするうちに、小学6年生の島の少女と出会い、文通をはじめの仲になります。文通をはじめ2年たったある日に届いた手紙。

そこには「弟が通っている保育所が、今度の春でなくなってしまうんだ。寂しいなあ。」ってかいてありました。この一通の手紙がきっかけで、小さな島の保育所の1年の記録を撮影する事となります。香川県丸亀市からフェリーで40分の島。広島。

島唯一の保育所、丸亀市立広島保育所は6人の子ども達のなんととも言えない輝く笑顔で溢れていました。じいちゃんやばあちゃんがブラッと寄ったり、漁師の父さんが釣った魚を届けたり。保育所は島の生活の延長、家庭生活の延長のようにみえました。

子ども達にとって大切な居場所。

15年間毎年子ども達をサツマイモ堀りに招待してきた木下のばあちゃんは微笑みながら言います。「子どもがいたら疲れがとぶけん」

残念ながら保育所は、子ども達の減少により休所となってしまいました。

けれど、その後島を去った子ども達は、口々に言います。

「じいちゃん、ばあちゃん。すき。島がすき。」 彼らの中に、愛された故郷の記憶が生きている。温かい眼差しに包まれた記憶。

何年も続いてきた島の何気ない生活の中に、今の時代に忘れかけている大切な目に見えない宝物が見えた気がしました。

保育所の子ども達は、今は小学3年生。時代の波にもまれていきます。

子ども達にとって生きにくい世の中ではありますが、未来を見つめていくことだけでなく、根底にながれる愛された記憶によって支えられて乗り越えていけることもあるのかなって思います。

「大きくなったら何になりたい?」「漁師!」「どうして?」「だって父さんが漁師をしようけん」

子どもの笑顔が輝いています。



文部科学省選定映画 「ボクラの島を忘れない」 (2005年/61分 監督:多田亜佐美)

瀬戸内海に浮かぶ香川県の小さな島・広島島を舞台に、過疎化が進む島の保育所の1年間を追ったドキュメンタリー映画。

映画の主人公である6人の子もたちが、恵まれた自然環境の中で、遊びを通して、また島の人たちとの交流を通して、元気に育っていく毎日が描かれています。

家庭科の観点からは、食育、保育、家族・家庭、地域とのかかわり、幼老交流、キャリア教育などの要素が詰まっています。授業でも活用できます。



全国へ映画(DVD・有料)を貸し出しています。 問合せ:いせフィルム 03-3406-9455 http://asami.babyblue.jp/ (予告編アリ)

開隆堂の高校家庭科用各種教材

近刊

家庭科ワークシート集

B4判 80シート
CD-ROM1枚 Windows版
ワード・一太郎対応
定価 6,300円(本体6,000円)
・学習場面に応じて必要なシートを複写し、生徒個々に配布して活用できる
・生徒の自主的・創造的な学習を促すことができる。
・各シートは、学習活動の内容によって、「課題」「調査/記録」「実験/観察」「計画」「技術のポイント」「発表/まとめ」「評価」「参考」などに活用できる。
・CD-ROMには、ワークシートの内容をデータで収録しているので、アレンジもできる。ワークシートの内容に加えて、調理の基本やミシンの操作などもアニメーションや拡大図で収録している。



ビジュアル栄養計算 (五訂増補版)



Windows XP/2000/NT4.0/98 対応
パソコンソフト
定価 12,600円(本体12,000円)
指導の手引き(B5判/80頁)付き
生徒用追加CD-ROM
定価 8,400円(本体8,000円)

『ビジュアル栄養計算』が五訂増補版食品成分表となってグレードアップ。ウィザードに従って操作するだけで、約1,000種類の料理データから、知りたい内容が簡単に計算でき、棒グラフやリーダーチャートで表示・判定ができます。

好評発売中

家庭科再発見



堀内かおる編著
望月一枝・西岡正江・濱崎タマエ著
A5判
152ページ
定価 1,890円(本体1,800円)

本書では小・中・高・大学におけるスケールの大きい家庭科の授業づくりと実践の詳細が示されており、家庭科教育の意義を再発見するとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、各学校・学級の状況に応じた家庭科の授業づくりのヒントを得ることができます。

家庭科 ACCESS 資料集 食品成分表付き



口絵+見返し
14ページ
本文
168ページ
(内 食品成分表32ページ)

定価
720円(税込)

- 教科書の学習を深めるために最適な資料(66テーマ)を掲載しています。
- 豊富な統計資料を、問題提起に基づいて生徒が考えを深められるように構成して提示しています。
- 多様な価値観の中から、生徒が自主的に生活のあり方を探求することができます。
- 見開き2ページで1つのテーマを構成しています。
- 食品成分表には1食分の目安を掲載しています。

食品成分表 (五訂増補)



B5判
272ページ
定価
730円(税込)

- 五訂増補日本食品標準成分表の全食品のデータを収録しています。
- 日常の食生活によく出る主要食品800の写真、グラフをカラー化し、視覚的に栄養成分が理解できます。
- 食品解説や栄養と調理に関する基礎知識、食生活と健康に関する資料は、食品への総合的な理解を広げられます。
- 1食分の目安を掲載しています。

新刊

家庭基礎 家庭総合 学習ノート



教科書準拠
体様：B5判 別冊解答書付

家庭基礎学習ノート 明日の生活を築く
本文 96ページ
定価 500円(税込)

家庭総合学習ノート 明日の生活を築く
本文 112ページ
定価 550円(税込)

ACCESS

Vol.10-1(通巻31号)
印刷所/興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8
発行所/開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
送料80円

平成19年1月25日印刷 平成19年1月30日発行 編集兼発行人 山岸忠雄
印刷所/興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8
発行所/開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
03(5684)6121[営業] 03(5684)6118[販売] 03(5684)6116[編集]/振替00130-8-75296